

国語 1 地域のためにできることについて話し合う(公園の美化)

1

同さんの学級では、地域のためにできることについて話し合うことになりました。同さんのグループでは、学校の近くにある公園をきれいにするについて話し合っています。次は、そのときの【話し合いの様子の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

岡さん

学校の近くの公園は、広くて遊具があり、一年生のころから遊んでいる場所です。私は、今まで使ってきた公園を自分たちできれいにすることで、もっとたくさんの人に気持ちよく使ってもらえるようにしたいです。私自身、どうすればよいと考えているところですが、みなさんはどんなアイデアがありますか。

谷原さん

私は、公園に行くと、おかしなふくろやペットボトルがいつも落ちてることが気になります。そこで、ごみを拾うきがあるように思います。ア「きれい」というのは、ロボットのことではなく、活動する時間のことです。

山下さん

公園のごみを拾うことは、すぐにできるのでよいと思います。でも、続けることは難しい気がします。私は、この公園には花が少ないので、許可をもらって、もつとたくさんのお花を植えれば、はなやかな感じになると思います。

谷原さん

確かに、山下さんの言うとおり、花を植えることは私たちにもできるし、はなやかになり、よいと思います。ただ、こまめに公園へ行って花の水やりなどの世話を続けることも難しそうですね。

山下さん

その点については、もう少し考えていきたいと思っています。

前田さん

私は、公園の遊具のベンキをぬり直したいと思っています。

中村さん

ウ「どうして、公園の遊具のベンキをぬり直すことが必要なのでしょう。」

岡さん

公園のすべり台やジャングルジムは、できてから時間がたっていて、どれも暗い感じがします。そこで、自分たちだけでできるかどうかは気になりますが、明るい感じにするために赤色や黄色のベンキで、ぜひぬり直したいと思っています。

中村さん

なるほど、いいアイデアですね。ベンキをぬり直して明るくすると、公園がきれいになるということですね。

岡さん

こうして、みなさんの話を聞いてみると、どれも公園をきれいにするためのアイデアですね。

中村さん

今までの話し合いで出たアイデアについて、よい点と問題点に分けて(メモ)をしてみました。

岡さん

私は、公園が明るくなるので、ベンキをぬり直すことがよいと考えました。できるかどうかは分からないという問題点については、公園を管理している人や家の人に相談するとよいと思います。

～(話し合いが続く)～

アイデア	
○よい点	△問題点
△ごみがなくなる	○花植え
△続けることがむずかしい	○はなやかなる
○世話を続けることがむずかしい	△明るい
△できるかどうかは分からない	△ベンキぬり

【話し合いの様子の一部】で、谷原さんが、――部アのように発言した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 意味を説明することで、同じ音でも複数の漢字があることを知ってもらうため。
- 意味を説明することで、同じ音で異なる意味をもつ言葉と区別するため。
- くり返し伝えることで、相手の考えを引き出すため。
- くり返し伝えることで、言葉のリズムをよくするため。

【話し合いの様子の一部】で、谷原さんや中村さんが、――部イや――部エのように発言した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 友達の意見に質問し、みんなの意見を一つにまとめるため。
- 友達の意見に質問し、認め合いながら話を進めるため。
- 友達の意見のよさを伝え、みんなの意見を一つにまとめるため。
- 友達の意見のよさを伝え、認め合いながら話を進めるため。

【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんの発言に対して、――部ウのように質問し、知れたことはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- ベンキをぬり直すことが、公園の遊具で遊べることにつながる理由
- ベンキをぬり直すことが、自分たちではできないことにつながる理由
- ベンキをぬり直すことが、公園をきれいにするにつながる理由
- ベンキをぬり直すことが、ごみのない公園になることにつながる理由

設問一

趣旨

話し言葉と書き言葉との違いを理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
①	1 1 と解答しているもの	6.3	◎
	2 2 と解答しているもの	85.6	
	3 3 と解答しているもの	6.0	
	4 4 と解答しているもの	0.8	
	99 上記以外の解答	0.4	
	0 無解答	0.9	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1は、「きかい」には、同じ音で異なる意味をもつ言葉があることは理解しているが、谷原さんが言葉の意味を説明することで、誤解を招かないようにしていることは捉えることができなかったと考えられる。
- 解答類型3は、谷原さんが言葉の意味を説明することで、同じ音で異なる意味をもつ言葉と区別しようとしていることを捉えることができず、相手の考えを引き出すために繰り返し伝えようとしていると捉えてしまったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

話し言葉と書き言葉との違いに気付く

- 話し言葉には、そのままでは遡って内容を確認できない特質や、聞き手の反応を見ながら修正したり、説明を付け加えたりできる特質がある。書き言葉には、読み手が文章を繰り返し確認できることや意味の違いを漢字で使い分けて表すことができる特質がある。自分の考えが正確に伝わるようにそれぞれの特質に配慮した使い分けを身に付けることが大切である。

本設問では、聞き手に正しく理解してもらうために同じ音で異なる意味をもつ言葉と区別して誤解を招かないように説明を付け加え、工夫していることに気付くことが求められる。

実際の授業場面では、スピーチなどのように、事前に原稿を用意して話す場合と、話合いのように原稿を準備することなく話す場合とがある。原稿が準備できる場合においては、聞き手の立場に立った上で、複雑な構文や誤解されやすい同音異義語などを避けるなど話す内容を考えられるように指導する必要がある。

また、実際に話す場面において、話し手が聞き手のうなずきや表情に注意し、自分の話したことが伝わっているかを確かめながら、修正したり説明を付け加えたりしてその場の状況に応じて話すことができるように指導することが大切である。

設問二

趣旨

言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率(%)	正答
① 二	1 1 と解答しているもの	6.1	
	2 2 と解答しているもの	12.3	
	3 3 と解答しているもの	11.3	
	4 4 と解答しているもの	68.9	◎
	99 上記以外の解答	0.4	
	0 無解答	1.0	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は68.9%であった。解答類型1～3の反応率も踏まえると、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題があると考えられる。
- 解答類型2は、谷原さんや中村さんの発言が友達の意見のよさを伝えるものであることを捉えることができなかったと考えられる。
- 解答類型3は、谷原さんや中村さんの発言の内容や「地域のためにできることについて話し合う」という話合いの方向性を捉えることはできたが、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることができなかったと考えられる。この中には、話合いは、意見を一つにまとめるためのものであるという意識が強くある児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える

- 言葉には、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる働きがある。特に話合いにおいては、そうした相手とのつながりをつくる働きのある言葉を適切に用いながら、話合いを進めていくことが大切である。

本設問では、話し手の発言の内容を適切に捉えた上で、「確かに」、「なるほど」と発言して、友達の意見のよさを伝え、認め合いながら話合いを進めることで、話し手と聞き手の間に良好な関係を築きながら、自分の考えを広げたりまとめたりしていくことが求められている。

学習指導に当たっては、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる言葉の働きに気付くことができるように、振り返りの場面などで自分たちの話合いの様子を確かめる活動を設定することが考えられる。ここでは、本設問を活用した学習活動の例を示す。

「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあること」について振り返る（学習活動の例）



岡さん

今日の話し合いでは、公園をもっとたくさんの人に気持ちよく使ってもらうために何をしたらよいかについて、みんなのアイデアを聞いて、自分の考えがまとまったよ。ありがとう。



中村さん

私も、みんなの意見を聞いて、自分の考えを広げることができたよ。今日は、いろいろな意見が出て、気持ちよく話し合いが進んでいたね。

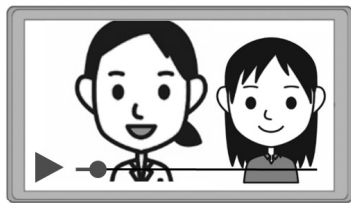


教師

何がよかったのか、自分たちの話し合いを動画で見直してみるとよいですよ。今日の話し合いが気持ちよく進んだのは、どんな言葉を使ったからなのか、言葉に着目してみてください。

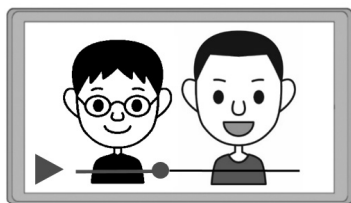


【話し合いの様子】



谷原さん

確かに、山下さんの言うとおり、花を植えることは私たちにもできるし、はなやかになり、よいと思います。ただ、こまめに公園に行って花の水やりなどの世話を続けることも難しそうですね。



山下さん

その点については、もう少し考えていきたいと思っています。



岡さん

この場面で、谷原さんが「確かに…ただ…」の発言をした後、山下さんは、「もう少し考えていきたい」と自分の考えを深めようとしているよね。



前田さん

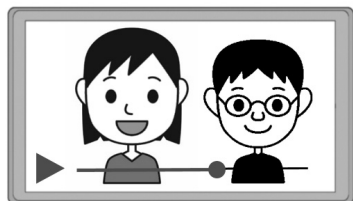
「確かに」と言ってもらえたことで、山下さんは自分の考えを認めてもらえたと感じたのかな。どう感じたかな？ 山下さん。



山下さん

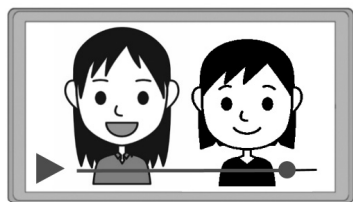
谷原さんに「確かに」と言ってもらえて、自分の考えが認められた感じがしたよ。この場面、最初から「難しそう」と言われていたら、自分の考えを否定されたように感じて、もう一度考えようと思わなかっただろうな。

【話し合いの様子】



中村さん

なるほど、いいアイデアですね。ペンキをぬり直して明るくすると、公園がきれいになるということですね。



岡さん

こうして、みなさんの話を聞いてみると、どれも公園をきれいにするためのアイデアですね。



山下さん

この場面で、どうして中村さんは「なるほど」って言ったの？



中村さん

前田さんの意見は、自分には考えつかなかった意見だったし、納得できたからだよ。前田さんのおかげで、自分の考えを広げることができたよ。



前田さん

「なるほど」と言ってもらえたから、私も伝えてよかったと思ったよ。その後、岡さんが、どのアイデアもいいアイデアだと、みんなの意見を認めていたのもよかったね。



山下さん

友達の考えに共感したり、認めたりする言葉を使うと、話し合いがしやすくなるね。ふだんの会話や他の学習でも大事にしていきたいな。



教師

言葉に着目したよい振り返りができましたね。お互いの考えのよさを認め、それを言葉で相手に伝えていくことで、話し合いが気持ちよく進みやすくなるのですね。

※本学習活動の例においては、「話し合い」や「話し合い」の表記について、「話し合い」という表記に統一しています。

設問三

趣旨

必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率(%)	正答
①	三	1 1 と解答しているもの	6.0
		2 2 と解答しているもの	4.4
		3 3 と解答しているもの	84.8 ◎
		4 4 と解答しているもの	3.5
		99 上記以外の解答	0.4
		0 無解答	1.0

2. 分析結果と課題

- 解答類型1は、「公園のすべり台やジャングルジムは、できてから時間がたっていて」という前田さんの発言の一部だけを踏まえて中村さんが知りたかったことを考えてしまい、中村さんが聞きたいことの中心を捉えることができなかったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

必要なことを記録したり質問したりして話の中心を捉える

- 「話の中心を捉えること」には、話し手が伝えたいことの中心を捉えることと、自分が聞きたいことの中心を明確にして聞くこととの二つの側面がある。話の中心を捉えるためには、話題について興味や関心を持ち、聞く目的を明確にしながら集中して聞くとともに、必要な事柄を記録しながら話を聞いたり、聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点などを質問したりすることが大切である。

中村さんは【話し合いの様子の一部】において、記録したり、分からない点について質問したりして話し手の伝えたいことの中心を捉え、最終的にペンキをぬり直すことがよいという自分の考えを表現している。本設問では、中村さんと前田さんのやりとりを踏まえ、中村さんがどのような目的で質問しているのかを捉えることが求められる。

このように、実際の授業場面においても、質問するだけに終始せず、質問して分かったことを踏まえて形成した自分の考えを表現できるように指導することが効果的である。そのため、聞いたことについて、第1学年及び第2学年においては感想をもつこと、第3学年及び第4学年においては自分の考えをもつこと、第5学年及び第6学年においては、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることを系統的に指導していくことが大切である。

学習指導に当たっては、以下の資料も参考になる。

(参照)

「平成24年度【小学校】報告書」 pp. 125-126

https://www.nier.go.jp/12chousakekkahoukoku/03shou-gaiyou/24_shou_houkokusyo-4_kokugoa_2.pdf



設問四

趣旨

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率(%)	正答
①	四 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 以下の内容を取り上げて書いている。 a 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで書いている。 b 選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書いている。 ② 【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 50字以上、80字以内で書いている。 (正答例) ・ ごみ拾いがよいと思います。続けることがむずかしい点については、当番を決めてごみを拾ったり、地いきの方にも呼びかけて協力してもらったりするとよいと思います。(77字) ・ 花植えがよいと思います。花の世話を続けることは大変ですが、公園をはなやかな感じにしたいので、みんなで当番を決めてけい続して世話をすればよいと思います。(75字)		
	1 条件①a、bの両方と、条件②、③を満たしているもの	47.8	◎
	2 条件①a、bの両方と、条件②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.2	
	3 条件①a、bの両方は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	3.0	
	4 条件①a、②は満たしているが、条件①bは満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	36.0	
	5 条件①aは満たしているが、条件①b、②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	3.7	
	6 条件②は満たしているが、条件①aは満たしていないもの *条件①b、③を満たしているかどうかは不問とする。	5.3	
	99 上記以外の解答	1.0	
	0 無解答	3.0	

2. 分析結果と課題

○ 平成26年度【小学校】国語B①三（正答率28.4%）において、「立場を明確にして、質問や意見を述べること」、平成30年度【小学校】国語B①三（正答率33.9%）において、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」に課題

があると指摘している。これに関連して、本設問では、互いの立場を明確にしながら話し合う場面を取り上げた。本設問の正答率は47.8%であった。互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに引き続き課題があると考えられる。

○ 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 公園に花を植えたらいいと思います。理由は、公園をはなやかにすれば、みんなも花から元気をもらえるからです。(52字)
- ・ ごみ拾いがよいと思います。やり続けようという気持ちをもてば、すぐにできるからです。(41字)

このように解答した児童は、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書いているが、選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書いていない。

この中には、問題点に対する解決方法にふれずに、アイデアを選んだ理由などを書いている解答が見られた。本設問においては、岡さんが「取り組みやすいという理由で」と、アイデアを選んだ理由については既に述べているため、理由は述べる必要がない。

このような状況が見られた児童は、話し合いの目的を意識することができなかつたり、問題点を捉えることができなかつたりしたと考えられる。また、問題点を捉えることができても、問題点を踏まえた自分の考えをまとめることができなかつた児童もいたと考えられる。「意見を言った後に理由を言う」などの学習の経験に基づいて解答してしまったことも考えられる。

3. 学習指導に当たって

互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる

○ 「考えをまとめる」とは、話し合いを通して様々な視点から検討し、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめることである。話し合った後で考えをまとめる際には、様々な視点から検討したことを踏まえて、自分の考えをまとめることが求められる。異なる意見を自分の考えに生かせるように、例えば「～という意見もあったが」、「～という考えもあるけれど」などの表現を用いられるようにすることが効果的である。

本設問では、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を具体的に考えていくことが求められる。話し合いの目的を意識しながら、自分のこととして考えていくことが重要である。

学習指導に当たっては、話し合いを始める際に話し合いの目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることなどが重要である。

本問全体を活用した「授業アイディア例」を次に示す。

授業アイデア例

「地域のためにできることについて話し合おう」 ～互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめる～		〈実施対象学年〉 第5・6学年						
本授業アイデア例では、単元の流れに沿って、課題に応じた指導事例を以下のように取り上げて紹介します。								
①話し合いの目的を意識できず、自分のこととして考えることができていない場合→【指導事例①】								
②互いの意見から必要な情報を見付けることができていない場合→【指導事例②】								
③自分の考えをまとめることができていない場合→【指導事例③】								
【指導事例①】	自分のこととして考えることができるように、話し合う際に、話し合いの目的や方向性を確認し、計画的に話し合えるようにする							
	学級全体では、「地域のためにできることについて話し合おう」ということになったけれど、私たちのグループの話題と、話し合いの目的を確認しよう。							
	公園が汚れているのが気になるな。公園をきれいにして、もっとたくさんの人に使ってもらいたいな。私たちのグループの 話題 は、「公園をきれいにすること」にしよう。							
	今回の話し合いの 目的 は、公園をきれいにするために自分たちができることを考えるということだね。							
	話し合いの方向性と、具体的にどのように進めていくか、確認しよう。 方向性 としては、いろいろな考えを出し合いながら話し合っていきたいね。							
	まずは、それぞれの考えを出し合っていこうか。 理由も聞きたいな。	グループで確認したこと <table><tr><td>話題</td><td>公園をきれいにすること</td></tr><tr><td>目的</td><td>公園をきれいにするために、自分たちができることを考える</td></tr><tr><td>方向性</td><td>考えを広げるために話し合う →そのために、互いの考えを明確にする よい点や問題点を整理しながら進める</td></tr></table> 	話題	公園をきれいにすること	目的	公園をきれいにするために、自分たちができることを考える	方向性	考えを広げるために話し合う →そのために、互いの考えを明確にする よい点や問題点を整理しながら進める
話題	公園をきれいにすること							
目的	公園をきれいにするために、自分たちができることを考える							
方向性	考えを広げるために話し合う →そのために、互いの考えを明確にする よい点や問題点を整理しながら進める							
	よい点や問題点を整理しながら進めることも大事だね。							
 教師	このグループでは、話し合いの目的や方向性をみんなで確認していて、とてもよいですね。確認したことを記録しておいて、話し合いのときに、意識している点もよいですね。							
ポイント▶ 話し合いを始める際に、話し合いの目的や方向性を確認する場を設けることが大切です。必要に応じて、教師が本指導事例のような話し合いのモデルを示すことも考えられます。 教師が、話し合いの目的や方向性を確認している児童の姿を価値付けたり、他のグループに紹介したりすることも大切です。 また、グループで確認したことを記録に残すように促し、その後の話し合いにおいても、意識するように働き掛けていくと効果的です。								

【指導事例②】

自分の意見と友達の意見を比べる場面では、必要な情報を見付けるために、よい点と問題点などを整理できるようにする

【立場ごとに記録する（例1）】（話し合いながら）

ごみ拾い ・ごみがいつも落ちている ○すぐにできる △続けることが難しい	花植え ・公園に花が少ない △許可をもらう ○はなやかな感じになる △続けることが難しい
--	---

ペンキぬり ・遊具が暗い感じがする ○明るい感じになる △自分たちでできるか分からない



それぞれの考えを付箋に書いてみて、よい点や問題点を後で比べてみよう。



付箋を改めて見ると、ごみ拾いと花植えは続けることが共通する問題だな。

【よい点と問題点に分ける（例2）】（話し合いながら）

	ごみ拾い	花植え	ペンキぬり	
よい点	・すぐにできる	・はなやかな感じになる	・明るい感じになる	
問題点	・続けることが難しい	・許可が必要 ・続けることが難しい ・花の準備が必要	・自分たちでできるか分からない ・ペンキが必要	



それぞれのよい点と問題点を分けてみようかな。私はタブレットを使おう。



比べてみると、花植えは問題点が多く、いろいろなことを解決しないといけないな。

※ タブレット端末等で、教師があらかじめ作成した表を児童に配付することも効果的です。

【観点を決めて比べる（例3）】（意見が出そろったら）

	すぐにできる	続けやすい	許可がいるか
ごみ拾い	○	△	○
花植え	△	△	△
ペンキぬり	△	○	△



話し合いで出てきたそれぞれの考えについて様々な点から取り組みやすさを比べてみよう。



取り組みやすさを比べてみると、ごみ拾いがいちばん取り組みやすそうだな。



話し合うとき、目的に合った方法で情報を整理すると、必要な情報を見付けやすくなり、自分の考えをまとめるときに役立ちますね。

ポイント

話し合う際には、目的に応じて、自分に合った情報の整理の仕方を選択し、情報を整理すると、自分の考えをまとめる際の必要な情報が明確になります。

話し合う際に活用できるように、「知識及び技能」(2)「イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。」と関連させて指導していくことが効果的です。

【指導事例③】

よい点や問題点を踏まえて、考えをまとめられるようにする



話し合いを基に、自分の考えをまとめたいけれど、どう言っていいいか、分からないな。



自分の考えをまとめるのは、なかなか難しいですね。自分の考えをまとめるにはどのようにしたらよいでしょうか。調査問題の【1】の【話し合いの様子の一部】の続きを、先生が3パターン考えて文章にしてみました。

パターン1～3について、みんなで考えてみましょう。

みなさんのアイデアや〈メモ〉から、取り組みやすいという理由で、私は、

【話し合いの展開を踏まえていない例】

パターン1

みなさんのアイデアや〈メモ〉から、取り組みやすいという理由で、私は、**公園に花を植えたらよいと思います。例えば、チューリップや朝顔がきれいだからよいと思います。**



パターン1は、「みんなのアイデアやメモから」と言っているけれど、話し合いで出た問題点についてはふれていないね。話し合ったことを踏まえて、考えていくことが大事だね。



そうだね。問題点を入れるとすると、パターン1は、「世話を続けることは難しいという問題点はあるけれど、当番を決めればよいと思います」と、まとめるといいよね。

【考えと理由が区別されていない例】

パターン2

みなさんのアイデアや〈メモ〉から、取り組みやすいという理由で、私は、**公園に花を植えたらよいと思います。なぜかという、公園をはなやかにすれば、みんなも元気をもらえるからです。**



パターン2は、「取り組みやすいという理由で」と、既に意見の理由を述べているので、さらに、「なぜなら」と繰り返し理由を言ってしまうと、違和感があるね。



そうだね。意見の後には理由を言いたくなるけれど、先に理由を言っているから、理由をまとめて言った方が考えと区別されていいね。



それだったら、パターン2は、もう理由は伝えているから、「世話を続けることが難しいという問題点については、当番を決めればよいです」と、まとめるといいよね。

【問題点を踏まえて、自分の考えをまとめられている例】

パターン3

みなさんのアイデアや〈メモ〉から、取り組みやすいという理由で、私は、**公園に花を植えたらよいと思います。世話を続けることが難しいという問題点もありますが、当番を決めて行えばよいと思います。**



パターン3は、話し合いでの検討を踏まえて、自分の考えをまとめることができるね。



そうだね。パターン3は、話し合いの中で出た、「花植えは、世話を続けることが難しい」という問題点を踏まえて、解決方法を自分で考えていて、とてもいいね。



花植えがよいという自分の考えに対して、世話を続けることが難しいという異なる意見も出たけれど、そのことを考えることで、自分の考えがより広がっていくことが分かったね。



「～という考えもあるけれど」という表現を使ったりして、友達の意見を受け止めることって、とても大事なだね。



みなさん、よく気が付きましたね。自分の考えをまとめるときには、話し合いを通して様々な視点から検討したことを踏まえることが大事ですね。今回の話し合いでは、問題点が出されたので、その問題点を取り上げて、それに対する解決方法を示す必要がありました。また、異なる意見を自分の考えに生かしていくことも大事ですね。自分の考えが広がります。ふだんから意識してみましょう。

ポイント

自分の考えをまとめる場面においては、考えをまとめていくときにはどうしたらよいのかについて、児童が気付くことができる手立てをとることが大切です。
例えば、教師が作成したモデル文などを教材として、内容や分量、話し方などに着目できるようにすると効果的です。

【活用のポイント】

- 本授業アイディア例のように、児童の学習の状況（つまずき）に応じた指導を行うことが重要です。
- 本授業アイディア例のように、令和4年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語1の【話し合いの様子の一部】を教材として活用して、学習を展開することが考えられます。

※本授業アイディア例においては、「話し合い」や「話し合い」の表記について、「話し合い」という表記に統一しています。